

みのわ通信 No. 139



発行：箕曲地域づくり委員会 (〒518-0441
TEL/FAX: 0595 (63) 0453

名張市夏見215番地 箕曲市民センター内)
Email: minowa-ko@emachi-nabari.jp



「みのわ×ダンススクール」が年内十三回の予定で始まり、夏休みに入った二十三日は「竹とんぼづくり」と「水車づくり」を悪戦苦闘しながら楽しみました。夏休み中も「防災教室」「レゴブロックでロボットを作る」等を予定しています。

はなももクラブ

今年度も箕曲小学校で「はなももクラブ」が開講しました。



とにかく暑い夏

蝉の響き渡る境内でラジオ体操が始まる。子どもと父母で二十人程の参加。楽しみのスイカ割の日をいつにと考えながら、この子どもたちの十年後、二十年後、成人になった時には日本がどのようなになっているのか、後の希望はあるのかと考える。本当に想像するに難しくなってきた。「普通がいなあ」

終戦八十年を迎え
この時期、戦争・平和についての報道

や活動が活発になる。お盆、終戦日によるものだ。今年は終戦八十年の節目の年にあたり、よりメディアもその特集を組む。間もなくシネマ「雪風 YUKIKAZE」が封切られる。「真夏のオリオン」玉木宏、「太平洋の奇跡」フォックスと呼ばれた男」竹野内豊が共に主演を張る。大作二百三高地、大日本帝国、連合艦隊の壮絶なシーンや防人の歌、契り群青に涙する作風とは変化している。望みがある限り決してあきらめない、戦、兵を守る最善の策をとる将校の器とは。昨年の「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら」は「俺は君のためにこそ死にいく」のソフト版で女子高生がタイムスリップして知覧の食堂を手伝う物事が

展開される。今年の雪風（駆逐艦）は戦闘、護衛、乗員救助と多くの命を救い必ず生還した史実に基づく。



先人の犠牲や血のにじむ復興への努力。今を生かされている私たちは平和への祈りと感謝を忘れてはならない。ポツダム宣言、安保条約、沖縄返還、オリンピック、万博。経済絶頂、猛烈社員、バブル、そして弾ける。奇遇にも重なる東京オリンピック、大阪万博は批判されての開催その成果はどうだろ



う。新しい日本の礎となるために散ったご英霊たちは今日の我が国をどう感じ見ておられるのだろうか。無気力、無関心の国はアメリカの五十一番目の州になるか、中国の極東自治区へとなっていくのか。我が国は日本であり続けたい。そのため普通の生活が送れるような備えづくりの当事者になりましょう。普通とは物事に感謝し、協力し、仲良く暮らしていけることか。

市民センター長
生田 茂夫